へ13
3730
22

へ13
3730
21

へ13
3730
21

門へ13
3730
21

夏山編

鄙傳

十一編

上冊

種員作

國貞画

彩昇堂梓

一

水の清澤なるも塞で流ざれば子孫を生じ五穀の生を育も饐て食もれば脾胃を損ず一日もらでもかゝるぬ物さへ程を失ふ時は如此権化の作と称せらる源氏とゆふも已ど きにあらはいとくい饐飯より遥まさりて看官の御腹中をや害人と思へば殊更筆も進まず硯の水も釘倒爪の生ずを遅々たる夜延業坐眠がちなる燈下の机上ふらつゞれば目覺てうとゝしきと光君の仰せる蹴鞠の段も遠うゝゞ一編四冊の四本がゝを布連ゝる鞠場砂ざゝゝと綴他人の手際のゝゝを羨くゆかいゝてあり

四

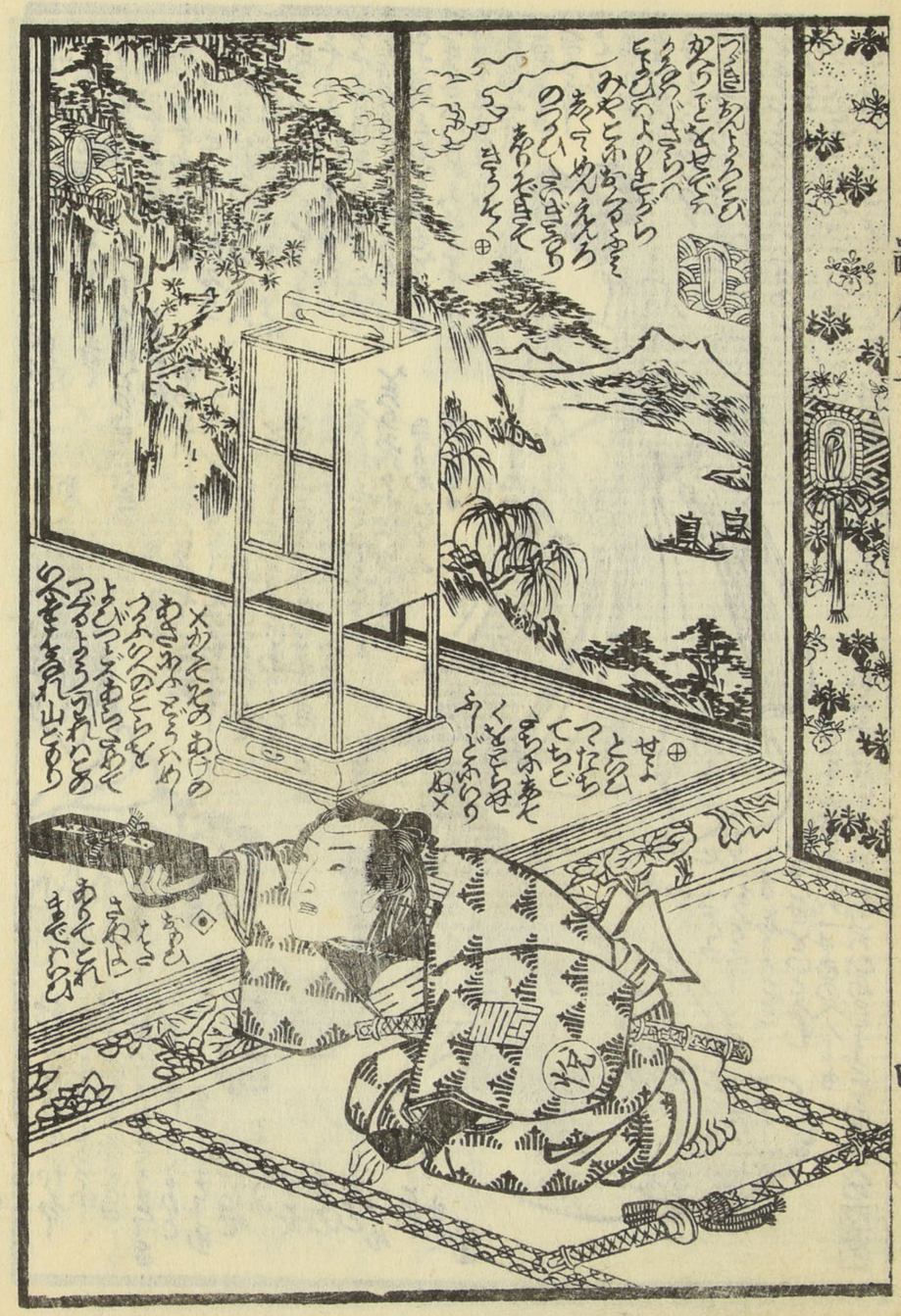
嘉永癸丑睦月

柳下亭種員

山名持姿入道宗入
明石の家を捨て山中ゑ隠遯する体

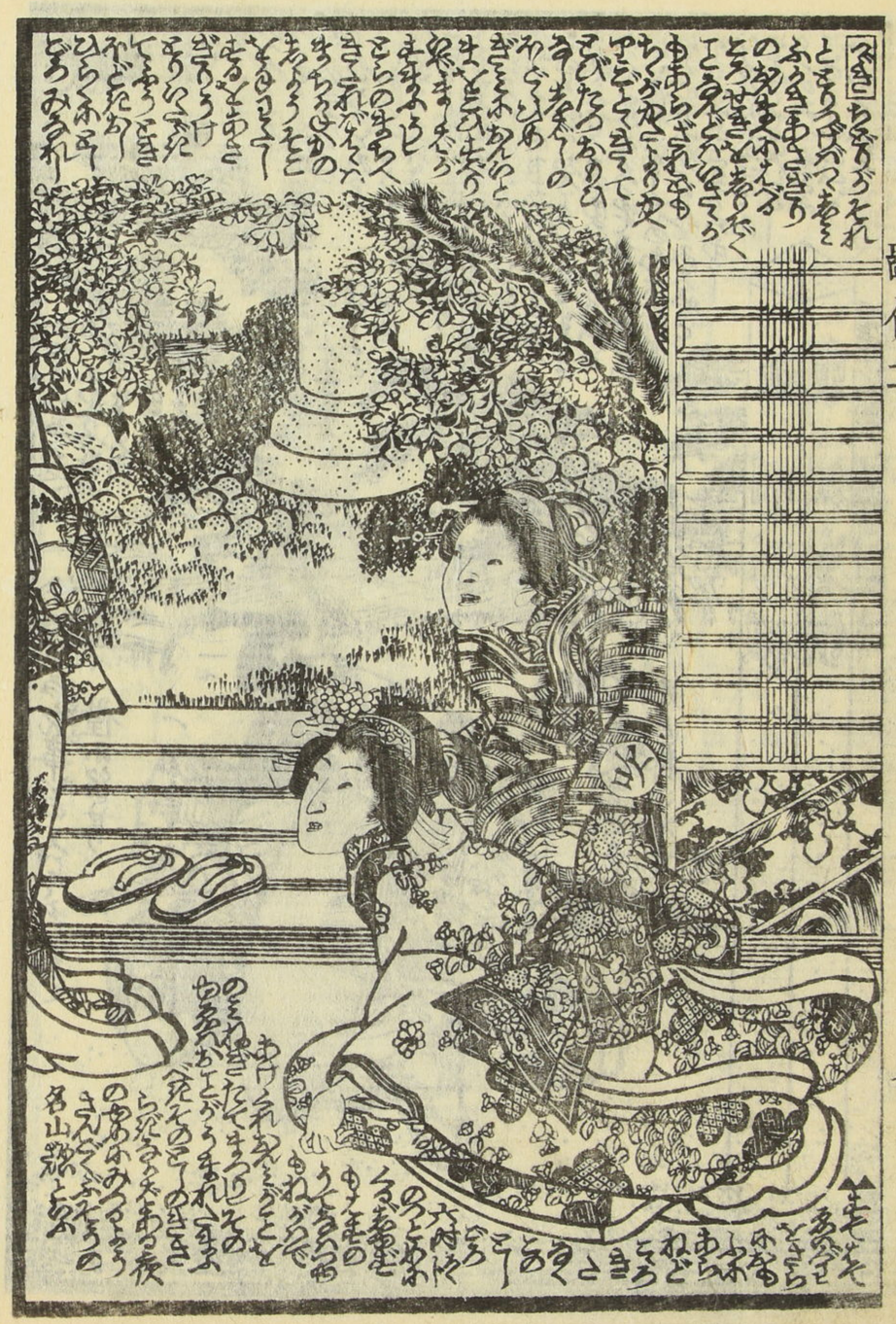
都乃
唱食
梅千代丸
仝
菊千代丸

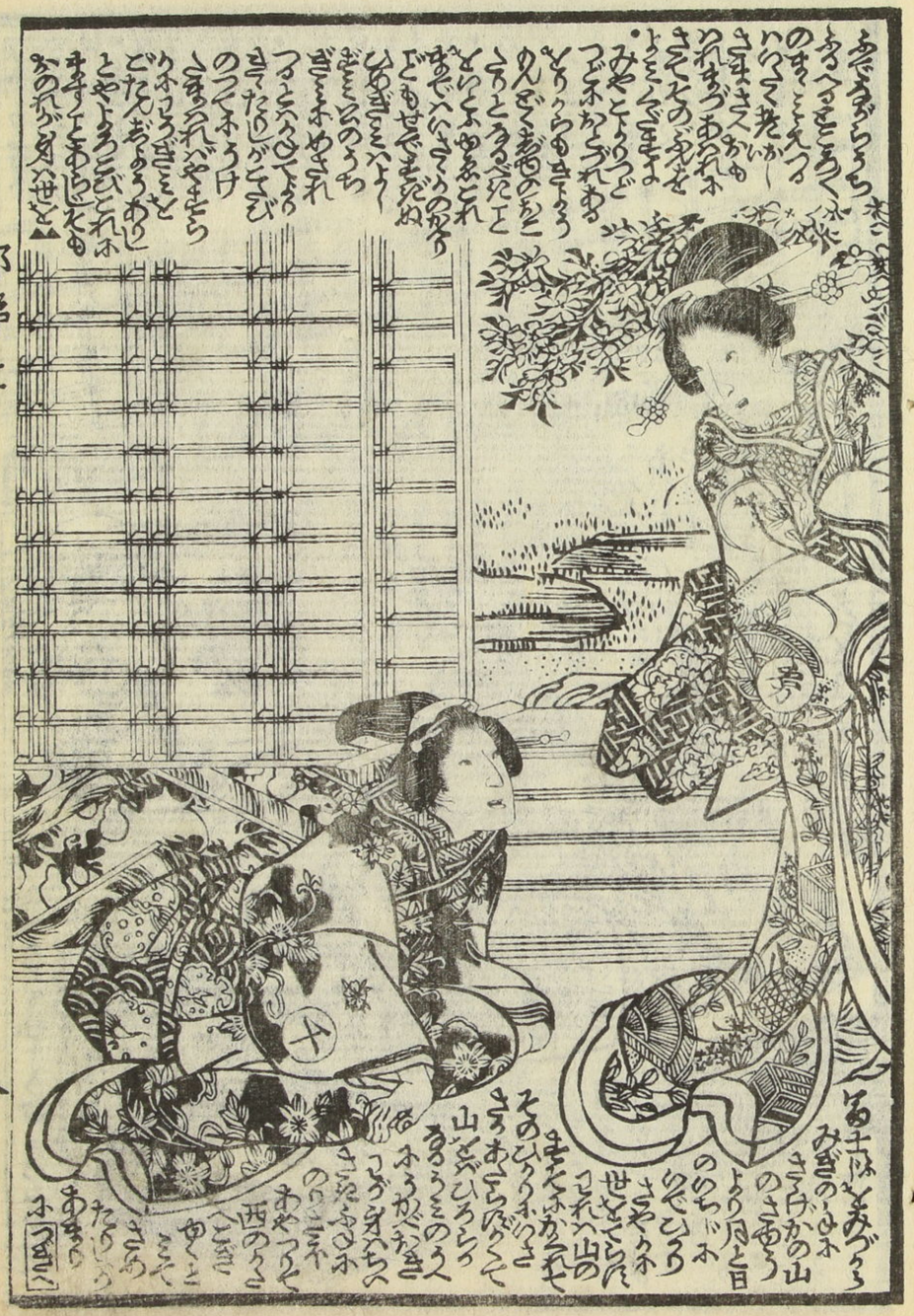
若菜上
曲亭馬琴

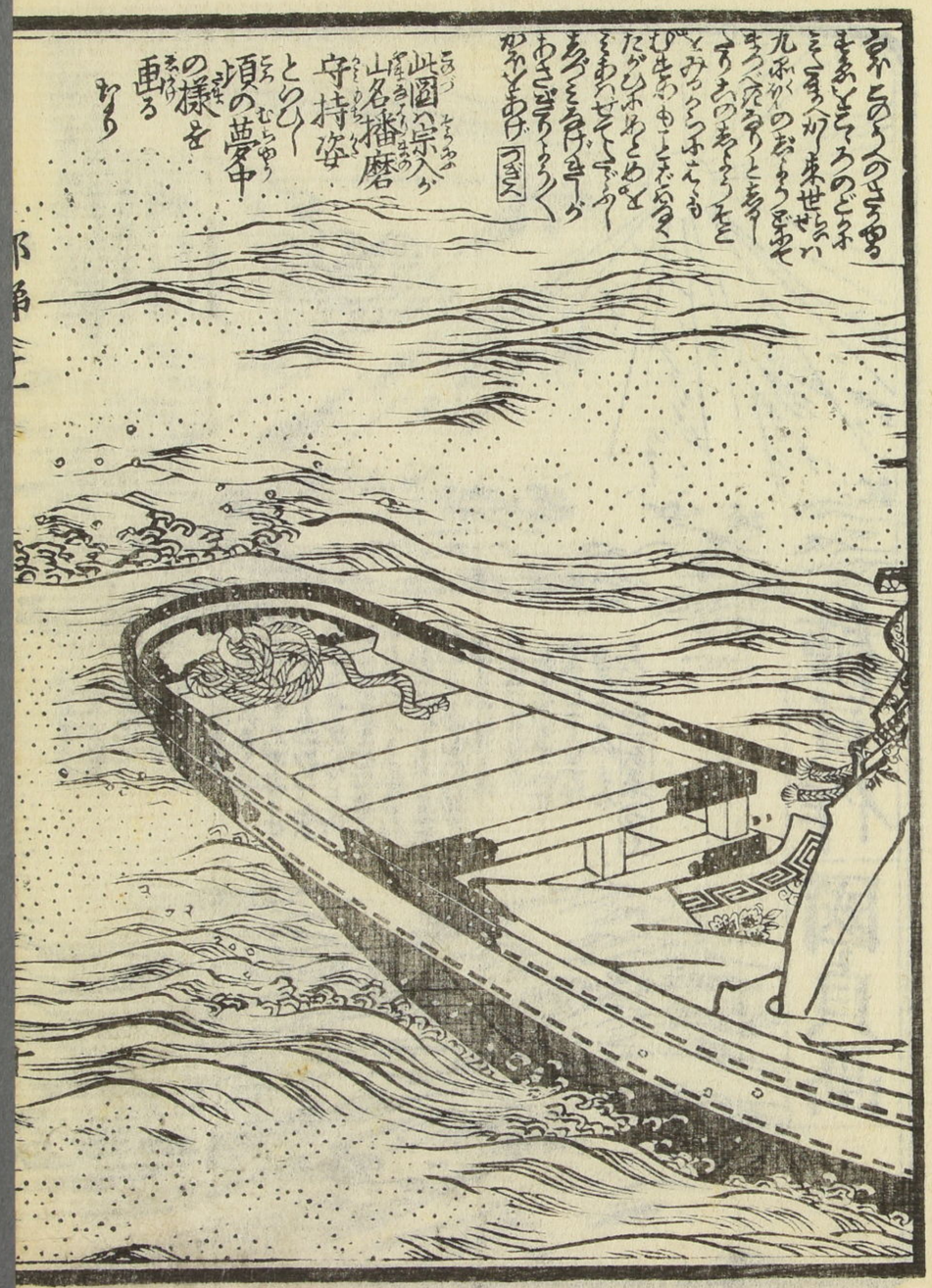


安
極
菊

西明石領
東須磨領







種員作
國貞画

へ13
3730
22

二の巻より [illegible]

[illegible]

[illegible]十一篇 下冊

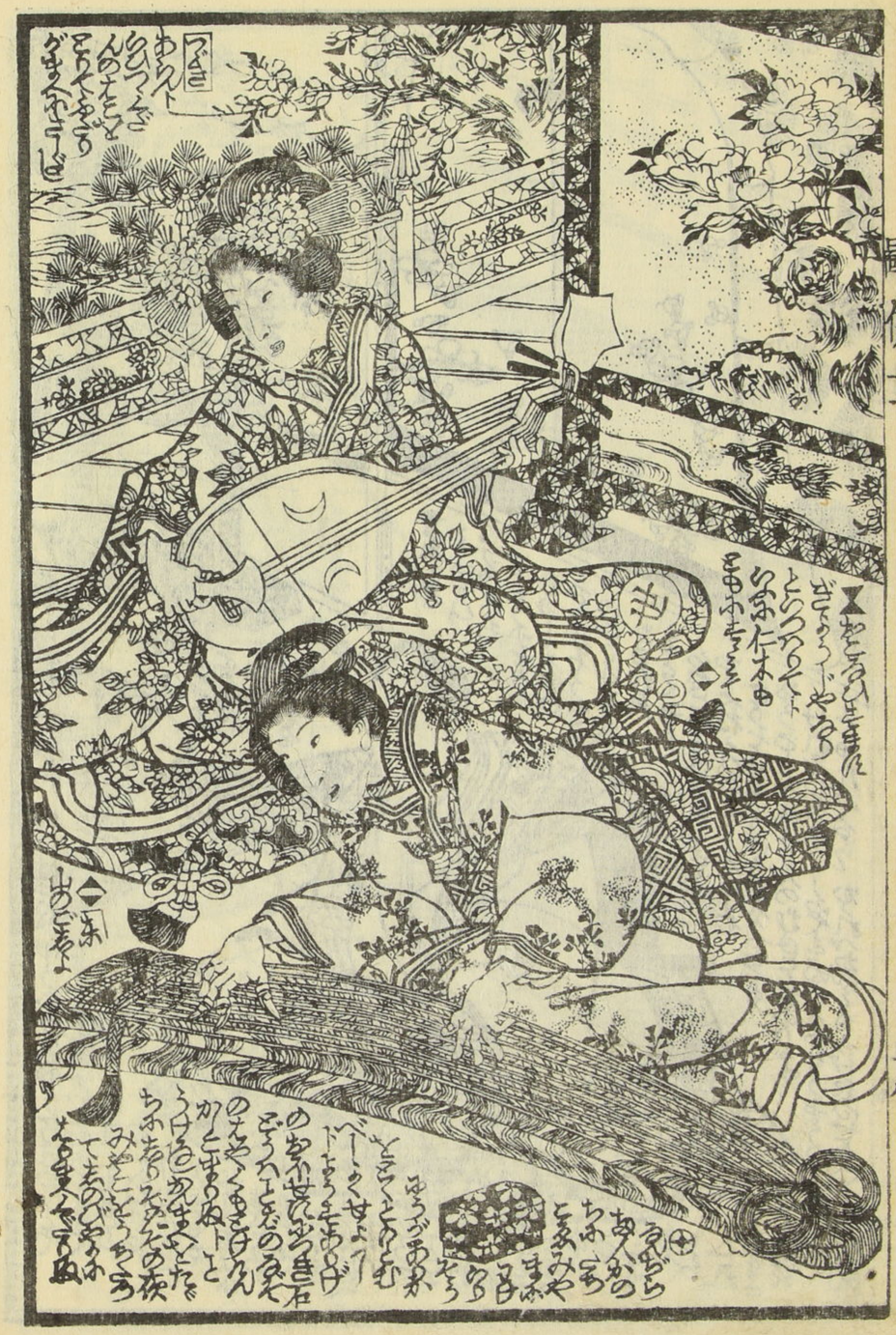
へ 13
3730
22

雪

琴

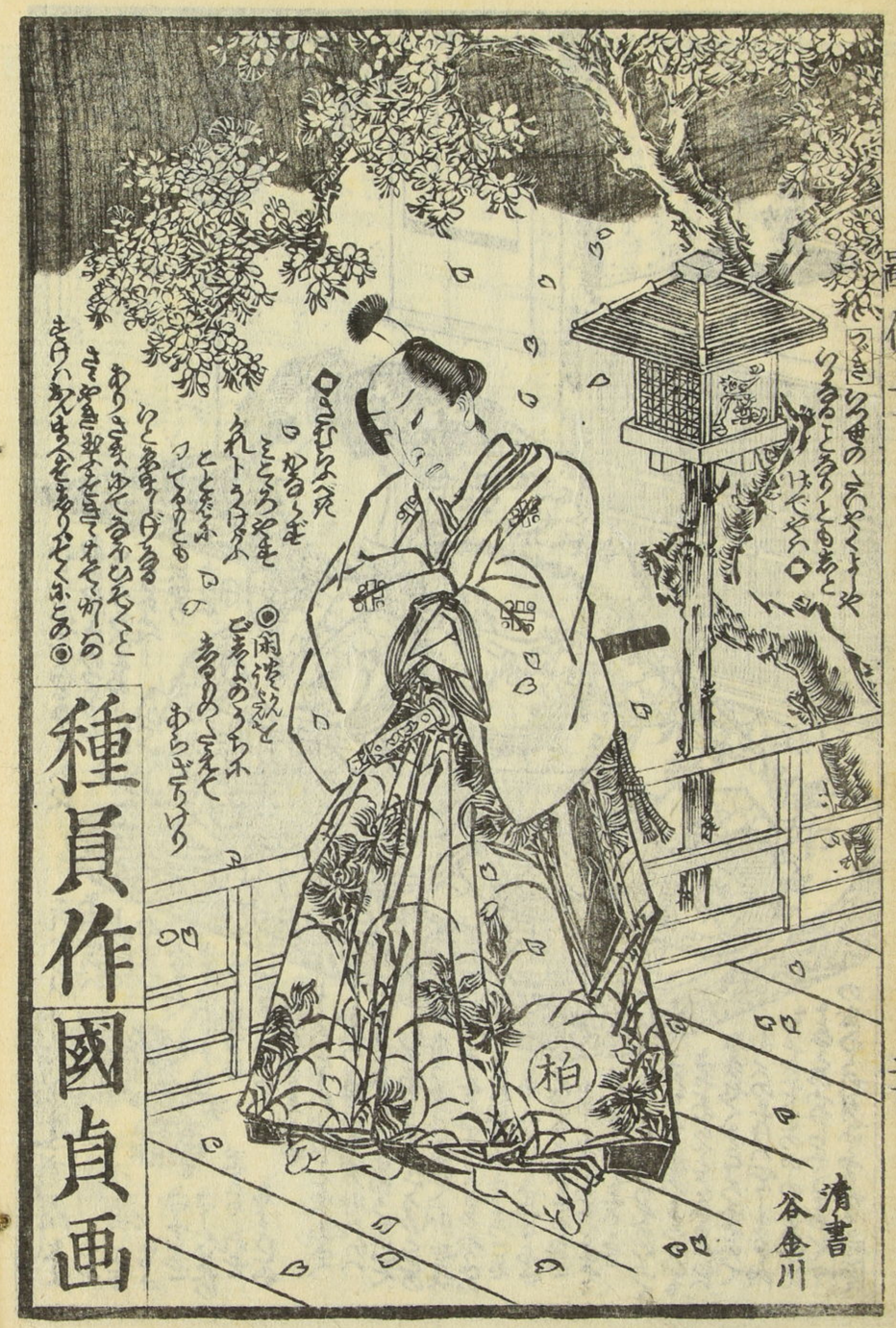
馬

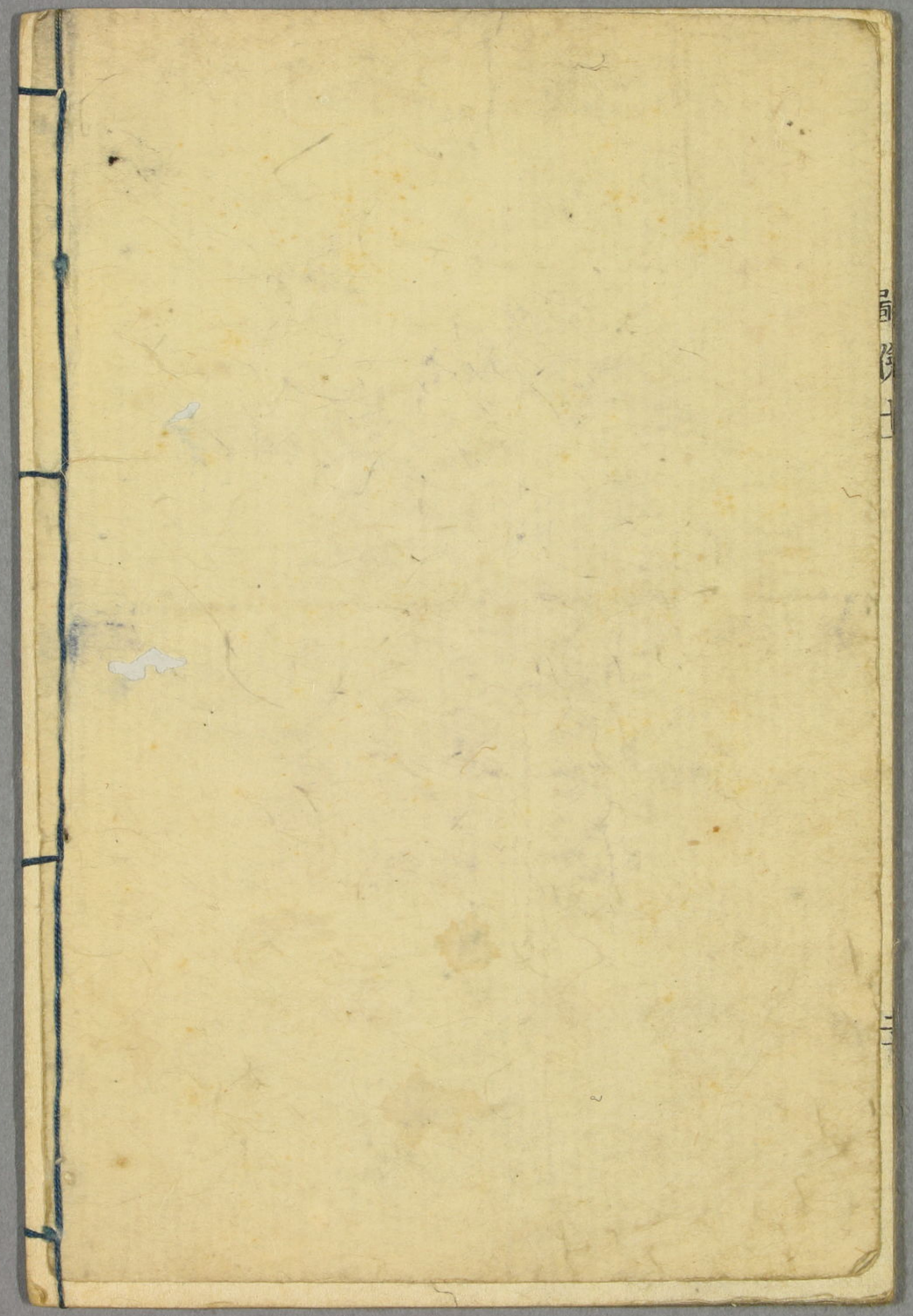
月



柏

輝



種員作國貞画

清書
谷金川